

ウィズコロナ時代の物流業界の動向に関する研究

日大生産工(院) ○福田 徳栄 日大生産工(教授) 鈴木邦成

1 まえがき

本発表では、コロナ禍における物流業界の動向の変化がどのようなものなのかを考察して、コロナ禍における物流の変化について分析することを目的としている。

物流業界の主要メディア¹⁾を参考にロジスティクスの最新動向について考察する。新型コロナウイルス感染拡大により、宅配便などの小口貨物取扱量が増加傾向にあることなどが注目すべき変化といえる。

2 事例検証：F社

D2C 及び e コマース事業者とスタートアップ向けにブランド・世界観を届ける「D2C e コマース物流フルフィルメントサービス」を開始したと発表した。

通常の通販物流と同様、受注・決済・ピッキング・配送・カスタマーサポートまで一括で対応可能である。さらに D2C 及び e コマース事業者に向けて、ギフトラッピングや同梱物対応など、幅広い要望にマルチに対応する。

商品と顧客との最初の出会いが、ユーザー体験の質に大きく関わってくるため、同社では「Unboxing=商品を受け取った時、箱を開封した時の感動をお届けすること」を提案している。

具体的には同梱物施策や梱包デザイン、CRM 設計など、物流フルフィルメントサービスを通じて購入体験の質を向上できる点を

サポートする。

サービスの具体的な点では、「事業規模の拡大や急な出荷量の増加に柔軟に拡張できる」「すぐに始められて必要なだけ使える」「D2C e コマースの受注から出荷まですべてを自動化」「フルフィルメントサービスの幅広い要望にマルチに対応」「物流サービス大手グループにて運営」「D2C 販売チャネル拡大」「CRM と UNBOXING」といった特徴を持つ。

同社は首都圏に 8 拠点の物流センターを展開し、食品・健康食品・化粧品・アパレル・メディカルデバイスなど多種多様な貨物を取り扱っている。創業以来 100 年以上に渡る経験と豊富な実績があるため、安心して業務を任せられる、としている。

また、スタートアップサポートプランを提供しているため、低コストで事業をスタートできる。分散出荷により、最短距離で商品をお届けできるため、物流コストを削減でき、オリジナルの梱包資材や購入者ごとの同梱物設定により、より良い購入体験を提供できる。

3 事例検証：R社

同社は、スーパーと来店宅配サービスでの配送サービス業務や梱包作業支援を担う新会社であり、これまで培ってきたノウハウを活かし、質の高い接客・サービスと安定した配送を実現することで、これまで以上

に顧客に満足してもらえるサービスを提供する。

R社は、2011年にネットスーパー事業を開始し、2020年にはEC事業全体の売上高が50億円を超える規模となった。コロナ禍を機に需要が一層高まっており、アプリやシステムの刷新、サービス対象エリアの拡大、そして今回の新会社による配送・サービスレベルの向上などにより、2030年にはEC事業の売上高1000億円を目指すとしている。

4 事例検証：S社

QRコードを活用することで配達時の「なりすまし」を防ぎ、新型コロナワクチン等を安全で確実に輸送できるスキームを構築した。

同システムは、QRコードを活用して

- ① 配達時間予告メール機能
 - ② ワクチン配達時の本人確認機能
- の2点を提供できることが特徴である。

特に②ワクチン受取時の本人確認機能は、事前の配達時間予告メールに医療機関ごとのQRコードを添付することで、配達時に医療機関固有のQRコードを読み込まなければ、ワクチンの引き渡しが出来ないため、なりすまし防止（受取証明）につながり、安全・確実なワクチン配送を提供できる。

5 事例検証：M社・H社

「持続可能な社会を実現するための新たな医薬品流通最適化モデル構築に向けた取り組み」を開始した。

同取り組みでは、店舗ごとに最適な医薬品の在庫量を分析・管理し、両社間の受発注・納品業務を減らすことで、車両燃料に起因するCO₂排出量の削減を図る。

また、医薬品の受発注や検品などの作業を効率化し、物流に係る従業員の労働生産性を向上させるとともに、薬剤師の本来業務への時間を創出し、地域医療に貢献できる体制を構築する。

そのほか、納品・検品回数的大幅削減をはじめ、両社で効率的な物流を追求し、多様化する働き方のニーズに対応できる環境を整備する。

両社は、気候変動対策を極めて重要な共通課題と捉え、北海道と東北地方のH社の店舗で同取り組みの実証実験を実施。その結果、物流分野でのCO₂排出量削減と円滑な商品流通の両立ができることを確認し、全国で実施していくことを決定した。

同取り組みは実施可能な店舗から順次開始しており、将来は全国展開していく方針である。

6 まとめ

各事例とも新型コロナウイルス感染拡大によりニーズに合わせた様々な新規事業を行っているといえる。

コロナ禍以降のニューノーマル時代に合わせた物流ビジネスモデルの構築が望まれているともいえよう。

参考 URL

- 1) Lnews <https://www.lnews.jp/>を中心にプレスリリースをピックアップした。